

ご挨拶

「第29回職業リハビリテーション研究・実践発表会」の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

当研究・実践発表会は、職業リハビリテーションに関する調査研究や実践活動から得られた多くの成果を発表いただく機会を設けるとともに、ご参加いただいた方々の意見交換、経験交流を通じて、研究、実践の成果の普及に努めるために、平成5年から毎年開催して、近年は1,000人を超える方々の参加を得てきたところです。

しかしながら、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の対応を考慮して、当機構の障害者職業総合センターのホームページである「ナイバー（N I V R）ホームページ」に、特別講演及びパネルディスカッションの動画を配信するとともに、発表資料を掲載する形で開催をいたしました。

今年度におきましては、感染症対策を考慮いたしまして、皆様に安心して参加いただける発表方式を検討いたしました。その結果、「ポスター発表」は残念ながら取りやめ、各プログラムの定員を減らし、開催規模を縮小した形での会場の開催と動画をホームページに掲載するという、ハイブリッド方式で行うことといたしました。

おかげさまで、本日2年ぶりでございますがこうして皆様にお越しいただき、無事開催当日を迎えることができましたことに、感謝を申し上げます。

皆さまの周りの中で、本日お越しいただけなかった方には、今申し上げましたとおり特別講演とパネルディスカッションの動画をナイバーのホームページに掲載する予定にしておりますので、そちらをご覧くださいようにお伝えいただければ幸いです。

さて、新型コロナウイルスの影響により、皆様を取り巻く環境は、感染症の対策に始まり、在宅勤務の増加、職務の見直しなど、急激な変化が生じたのではないのでしょうか。また、それに伴う課題への対応も求められていることと想像いたします。

今回の研究・実践発表会では、急激な変化をチャンスととらえ前進されている企業ベネッセビジネスメイト様のお取組みを、特別講演においてご紹介いただきます。

また、課題への対応ということで、今回はパネルディスカッションのテーマとして、一日目は「メンタルヘルス不調による休職者への対応」、二日目は「職務創出とその支援」という大変時期に合ったテーマを設定させていただきました。

一日目の「メンタルヘルス不調による休職者への対応」は、当機構研究部門の調査結果から企業における休職者に対する措置や課題などを紹介いたします。さらに、不調に悩む社員への対応をされている二つの企業のご担当者から取組み事例を報告いただいたうえで、職場復帰に至るまでの対策、復帰後の対応、再休職を防ぐ取組み・工夫などについて検討しております。

二日目、明日の「職務創出とその支援」は、まず支援機関と連携して本社から全国の事業所に雇用拡大していった取組みを紹介いたします。さらに特定の部署から仕事の切り出しの取組みを徐々に進めていって他部署に広げていく、組織内の理解促進やサポート体制の構築を図るという事例をご紹介します。

これらをとおして、継続的な雇用に向けた職務創出について、企業と支援機関それぞれの立場から考えさせていただきます。

さて、障害者雇用が進む中で、今般突如新型コロナウイルスの流行という形で大変先行きが不透明な事態になっているわけですが、このようなピンチでも、先人の方々は数々の変化に順応して乗り越えてまいりました。では、このコロナ禍はどのように乗り越えればよいのか。そのヒントが今回の研究・実践発表会にあるのではないのでしょうか。皆様が向き合っておられる課題の解決策を見つけていただく機会となれば幸いです。

結びに、今回の研究・実践発表会の開催にご協力を賜りました特別講演の講師原田様、パネリストの皆様、分科会発表者の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、本発表会が皆様にとり実り多いものとなりますよう祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

令和3年11月9日

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
理事長 湯浅 善樹